

教科目名 建築学概論 (Introduction to Architecture)

学科名・学年 : 都市・環境工学科 5 年 (教育プログラム 第 2 学年 ○科目)

単位数など : 選択 1 単位 (後期 1 コマ, 授業時間 23.25 時間)

担当教員 : 前 稔文

授業の概要			
建築学も土木工学と同様に、意匠・計画、構造・材料、環境・設備など多岐に細分されている。本科目では、建築学について広く学ぶことを目的としており、意匠設計や外観的な計画だけでなく構造や環境の視点からのデザインについても学ぶ。			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (B2), JABEE 目標 (2.1①) (g)	
(1) 建築の各分野における役割について理解できる。(定期試験)			
(2) 住宅や商業建築などを例とし、それらの位置づけやディテールについて理解できる。(定期試験)			
(3) 演習を通して理解を深めるとともに、継続的な学習ができる。(課題)			
(4) 継続的なスケッチや演習により表現能力を向上することができる。(課題)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	概説	○建築学の体系について理解できる。	【理解の度合い】
2	建築の分野・分類	○建築における分野の別、および建築物の分類について理解できる。	
3	意匠・設計	○建築意匠・設計の基礎や、都市および建築計画の基礎について理解できる。	
4	都市計画・建築計画		
5	都市計画・建築計画		
6	建築史	○建築の様式や技術の歴史の概要について理解できる。	
7	建築史		
8	後期中間試験		【試験の点数】 点
9	後期中間試験の解答と解説	○分からなかった箇所を理解できる。	【理解の度合い】
10	環境・設備	○環境・設備の役割について理解できる。	
11	構造・材料	○建築における構造・材料の役割について理解できる。	
12	建築図面	○建築図面および表現方法について理解できる。	
13	デザイン演習		
14	デザイン演習		
15	後期期末試験		【試験の点数】 点
	後期期末試験の解答と解説	○分からなかった箇所を理解できる。	
履修上の注意	授業項目に合わせて課題を出す。課題以外にも授業でスケッチをすることもあるので、鉛筆を用意しておくことが望ましい。また、課題や演習は授業時間内に終わらないことも予想されることから、時間外での作業となるので提出に遅れないようにすること。		【総合達成度】
教科書	なし		
参考図書	日本建築学会編、「第 3 版コンパクト建築設計資料集成」、丸善出版		
自学上の注意	身近にあるものについてスケール感を持ちながら、空間構成を意識しておくことよい。また、常日頃から建造物や風景、プロダクト等をデジカメやスケッチで記録しておくことよい。		
関連科目	鋼構造学、構造力学Ⅱ、コンクリート構造学Ⅰ、造形デザイン(専攻科)		
総合評価	達成目標の(1)～(4)について 2 回の定期試験と課題で評価する。 課題点=0.5×スケッチ・課題の平均 + 0.5×デザイン演習課題 総合評価=0.8×定期試験の平均 + 0.2×課題点 総合評価が 60 点以上を合格とする。再試験は、総合評価が 60 点未満である者のうち、課題を全て提出し総合評価が 40 点以上の者のみを対象として行なう。		